



神奈川版
2024年7月号
月間「不屈」
No.601付録
編集兼発行人
小澤 睦夫

治安維持法犠牲者 国家賠償要求同盟

神奈川県本部

〒221-0823

神奈川県横浜市神奈川区二つ谷町2-9

TEL/FAX 045-314-1766

E-mail chian.kanagawa@spice.ocn.ne.jp

県本部総会（9月14日開催）の成功めざし 会員拡大、署名活動で新たな前進を

県本部会長 小澤睦夫

国賠同盟史上最大の会員、16900名を超える会員数で第41回全国大会が開催されました。岸田政権が進める戦争する国づくりに対して、全国の国賠同盟が果敢にたたかい、活動し組織の拡大目標を達成している経験をリアルに聞き、「よし、神奈川も頑張つて次の大会までには史上最大の県同盟に前進して参加したい」と決意を新たにしました。特に北海道同盟が、これまでの最高時1300名を23年ぶりに回復して、大会を迎えたとの報告に、心からの拍手を送る気持ちでした。

関東ブロックの仲間である東京、千葉、埼玉の同盟組織が、いずれも前大会比110名から140名を超える会員拡大の意気高い発言に勇気をもらうだけでなく強い刺激を受けました。

また、新潟県同盟は前大会比140%まで会員を増やしての参加でした。上越市や豊栄市で支部をたちあげ、会員を飛躍的に増やしている経験は大いに学ばされました。

4月～6月を「会員拡大特別期間」が設定され、県同盟は昨年総会の拡大目標を達成することを目標に掲げました。それは毎月純増5名、次期総会まで60名の純増という目標でした。4月から6月の拡大数は24名、退会15名。7月1日現勢は708名で前大会比マイ

横浜西部支部は4月から4回のDVD上映会（種をまく人びと、時を撃てー多喜二）を行い、その都度会員拡大し、4月～6月で11名を迎えました。こうした経験を広めていきたいと思えます。

県同盟は9月14日に第42回県本部総会を開催します。この総会を機に、新しい県同盟の活動方向、体制確立、支部の建設を目指して行きたいと思えます。

同盟中央本部から新たに発行された、学習テキスト「治安維持法とは何か」を学び支部学習会も開催していきます。

国賠の仲間づくり、署名活動の経験と教訓を結集して新たな前進方向を打ち出す総会にするため、県同盟のみなさんのご奮闘を心から呼びかけます。

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟 神奈川県本部
第42回定期総会

日時 9月14日（土）午後1時より
会場 川崎市総合自治会館
（JR武蔵小杉駅西口・東急東横線
武蔵小杉駅南口・小杉サードアベ
ニュー4F）

第41回全国大会に参加して (参加者の声)

再び戦争と暗黒政治を許さないために

県副会長 浜本大蔵

戦後79年、治安維持法の犠牲者が亡くなつたら、この運動はどうなるのだろうか、なんとなく疑問？不安？を抱きながら参加しました。運動方針案にも「犠牲者のみなさんの多くが故人となられた現在、私たちの運動を次の世代にどう継承していくのか：名称を含めた同盟活動の進め方の議論を開始」と書かれています。



県本部からの参加者 左から南須原、浜本、江藤、塩田、小澤の各氏

2日間の発言を聞いていて、

そんな私の疑問や不安はいつの間にか解消されていきました。たとえ100年経つても、200年経つとも、この運動は続けていくのだ、続けるべきなのだ、と思うようになっていきました。アジアやアフリカ、中南米では19世紀以来の侵略・植民地支配の謝罪と補償を欧米諸国政府に求めてたかっています。それは現在にも生き続けている植民地主義やレイシズム（人種民族差別）を許さないたたかいだからではないか。韓国民の日本政府に対する従軍「慰安」婦や強制連行・徴用工に対する謝罪と補償のたたかきも同じではないか。「過去に眼を閉ざす者は、現在にも盲目なる」そう思うと私たち同盟は時と所を超えて、そうした闘いと連帯してたたかいを担っているのではないか、そう思うようになりました。今、岸田自公政権は戦争への

道をまっしぐらに突き進もうとしています。共謀罪や特定秘密法、土地利用規制法や経済安保秘密法、地方自治法改悪など次々と弾圧法体制を成立させて、いつでも国民弾圧の狙いを覗つています。「再び戦争と暗黒政治を許さない」同盟運動は今こそ出番です。そんな確信を持つて帰路につきました。

「今日の沖縄、明日の日本そして治安維持法」

横浜東部支部 南須原 圭

この度、神奈川県賠償同盟に加えて間もない私を、全国大会及び代議員推薦また討論に参加する機会をいただき感謝の気持ちで一杯です。

今大会は沖縄県議会議員選挙まもない事もあり、南西諸島への自衛隊配備、全国の特定期間指定について各代議員が地元の実状を強く発言されていたのが印象に残る大会でした。また台湾有事に備えた先島



諸島住民の九州各地への避難訓練計画はまさに国民の分断を厭わぬ重大な問題だと改めて認識させられました。

加えて来賓挨拶で自由法曹団事務局長・山添健之弁護士が台湾のひまわり学生運動、国家人權博物館での人權教育に触れ、日本の立ち遅れた人權教育に警鐘を鳴らされました。ひまわり学生運動とは太陽花学生運動とも呼ばれ、中国経済依存を強く進めようとした国民党政権に対し、市民や学生が立法院を占拠し、後の地方統一選挙で国民党を大敗に追い込むきっかけを作った政治運動です。現在の中国の動向を見ると、香港に国安条例を施行し、言論封殺を増々強めています。この香港の国安条例はかつて日本で多くの冤罪・犠牲者を生んだ治安維持法そのものです。

【3面に続く】

(2面より続く)

治安維持法施行後日本は一挙に戦争国家へと突き進みわずか20年で敗戦となります。

この「今日の香港―明日の台湾―明後日の国安条例」の流れを現在の日本に照らし合わせる「今日の沖繩―明日の日本」そして新たな治安維持法へと進んで行きそうで気がきでなりません。そしてこの事を直接強く世論に訴えられるのは、治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟以外ないのではないかと強く実感した二日間でした。

学習を積み重ね、豊かな同盟活動を

県事務局長 江藤みさお

6月19・20日の2日間全国大会に参加して参りました。

第一の感想は、どの地域の皆さまもとても元気で精力的に活動されて居るところです。

第二は若い方もちらほら見かけたので、平均年齢が少し下がったのではないかと言うことです。



あいさつする山添議員

私なりにには一生懸命活動してるつもりではいましたが、活動の仕方を改善し、効率的に活動すべきだと痛感致しました。

学習ももっともつと学ばないといけない事がいっぱい有るとに気付きました。本を読んで学習する事で治安維持法同盟の活動に厚みが出ると感じました。知識を増やすことで、全国大会や関東ブロック集会などで、しっかりとした内容の発言ができるようにしたいと思います。

この2・3年で所属支部の事務局長、神奈川県本部の事務局長につかせてもらい、最初は知識も自信ありませんでした。全国大会などの、大きな集まりに参加する様になり、色々な地域の方々と交流をもったり、お話を聞かせてもらい、私を治

安維持法同盟の中で大きな役目につかせてもらった事には意味が有ると感じる様になり少しでもお役に立ちたいと思う今日この頃です。

国際部の存在も知り、女性部の大切さも知りました。

神奈川も、もっと女性部を活性化させなければと前から感じていましたが、本腰を入れないといけないと考えています。

まだまだ、わたくし自信が発展途上ですので、色々な経験や学習を積み重ね、同盟員としての存在価値を強めて行きたいです。出来る事、出来ない事を自分がつかり把握して、周りの先輩方にどう協力を仰ぐかを自分自身が理解しないといけない事も学びました。

やはり、大きな大会に参加する事は何らかの、刺激を受けて帰って来ます。自分の活動のありかたを見つめ直す機会にもなります。

懇親会では、楽しく会食ができました。長い活動の中で歌い

継がれて来た歌を皆さん声高らかに歌い上げられる姿を見て凄く感動しました。

全国大会に参加するよう勧めてくださった事、感謝いたします。

参加して感じた事を活動にかせる様に努力して行きます

待望の新テキスト！全県こぞって学習運動を

治安維持法とは何か

—戦争する国にしないために—

頒価500円

発行 治安維持法同盟中央本部

申込先 県本部 tel/fax 045-314-1766

毎月第二水曜日、

駅頭宣伝

湘南支部

6月12日に再建後初めての駅頭宣伝を行いました。

参加者は支部から4名、そこに県本部の小沢会長が加わり、5人での宣伝になりました。

署名数11筆 ビラ15枚 カンパ100円でした。

3名は通りかかった知り合いが署名してくださいましたが、後の8名は全く知らない方々です。1時間の宣伝で8名の方々が賛同してくれたことは大きな成果だったと思います。

毎月、定例化するとその月、その月で色々な嬉しい事が起こる事を願って続けて行きたいです。回数を重ねるにつれ、アイデアや工夫が生まれて来ると期待しています。

同盟員が増える事はその支部に新しい風を吹かせてくれます。駅頭宣伝もやらなければと頭の中には有ったのですが、今まで



再建後初の駅頭宣伝

最近加盟し、事務局会議にも参加してくれてる方が、「駅頭

【寄稿】

「能登に住みたい」「能登はやさしや土までもの地で

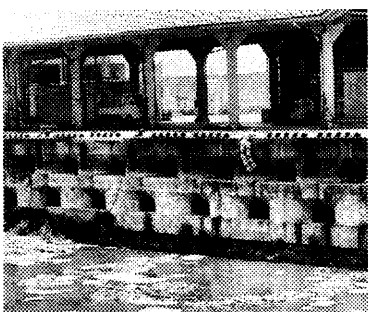
湘南支部 沼上 常男

能登半島ボランティアに、10日〜13日まで、3泊4日で行ってきました。1月1日の発災から半年、日本共産党をはじめ民

登半島地震被災者共同支援センター」は、被災者に寄り添い、各地につくられた仮設住宅を訪問し要望の聞き取りと全国から寄せられた支援物資（お米、水、生活物資など）を届ける訪問活動を中心におすすめしてきました。

今回のボランティアは4回目になりました。道路の補修、水道などライフラインは、一定復旧しましたが輪島市や珠洲市など震源地に近い奥能登は大きく遅れているのが現状です。

今回のボランティアは、被災



輪島市門前町の鹿磯（かいそ）漁港4メートルも隆起している。

は実 宣伝やりましようよ。」と私た現化ちの背中を押してくれました。そのひと声にみんなが立ち上がり、第1回駅頭宣伝に至りませんでした。次の宣伝に向けて、大きなプラスターも作る予定です

8月8日の定期総会の成功、来年度の国会請願署名の達成めざしてがんばります。

者の自宅の片付け、災害ごみの運搬などで活動しました。穴水町のお寺と個人宅の、カーペットや畳や廃材のかたづけをおこない、町の集積所への運搬を行いました。また、仮設住宅への訪問で出された声は、入居すると「自立」とみなされて食費や光熱水費が自己負担になるなど、被災者に自助努力を求める国や自治体の姿勢に疑問が出されています。能登の人は昔から「能登はやさしや土までも」と言われ、やさしさがあふれる土地柄です。「能登に住みたい」この思いに応える支援を継続したいです。

共同支援センターには、毎日のように色々な要望が入ってきていて、これらに対応するためには、ボランティアと支援物資が足りません。切れ目ない支援をお願いします。

【県本部4役会議】

7月26日（金）

午後1時30分より